

# 学校再開にあたって～6月1日朝 全校放送原稿～

江別市立大麻東中学校長 三浦 崇史

生徒の皆さん、おはようございます。4月17日の金曜日に給食を食べた後に下校して以来、課題や学習用具を取りに学校に来た以外では、約1ヶ月ぶりの登校となりました。

2月27日からの臨時休校を加えると、途中計10日ほどの登校期間があったとはいえ、これだけ長い期間学校に来られなかつたわけですから、本来であれば、全校集会を開いて、そこで面と向かって皆さんにお話をすべきところですが、ご存じのように、新型コロナウィルス感染症から身を守るためにには、極力、密の状態を避けなければなりませんので、このような放送の形をとらせていただきました。ご理解ください。

久しぶりに皆さんのが学校に来た喜びはもちろん大きいものがあります。でも、これからお話する内容は、皆さんにとって決して喜ばしいお話ではありません。今、とても心苦しい思いでマイクに向かっています。

昨日まで臨時休校が続いたことにより、授業はもちろん通常の学校生活で考えられるありとあらゆることが、すべて無くなったり延期したり変更しなければならなくなっています。

今まで当たり前だと思って取り組んできたことのほとんど全てが、当たり前のことではなかったのだということをつくづく考えさせられた3ヶ月間でした。

そうした中で、まずお話しなければならないのは、テストや学校行事についてです。

昨年度までの同じ時期どおりの学校生活であれば、4月には3年生の修学旅行があり、5月29日には体育祭を行う予定でした。また、この6月には前期の中間テストを行い、この先、7月には、2年生は宿泊学習、1年生は校外学習に行く計画で、その準備に取り組んでいます。

既に安心安全メールでもお知らせしたように、前期の中間テストは中止します。その分、これから授業を再開し進めていく中で、授業内容をもとに教科ごとに単元テストや到達度テスト、小テストを実施していきます。詳しいことは、これから教科の先生はもちろん、学年・学級の先生方のお話をよく聞いて対応してください。その他、授業を進めて行く上では、教科によって、新型コロナウィルス感染症対策として様々なことに注意をして進めていかなければならないことに変わりはありません。これらも、日常の学校生活を送る上で様々な注意事項と合わせて、先生方の指示や注意をよく聞き、まずは自分で考え仲間とも確認し合い、より正しく判断して取り組んでください。

修学旅行、宿泊学習、校外学習は、いずれも実施時期を延期する中で、行き先や内容の変更について検討してきました。

修学旅行は、つい先日までは8月の夏休み明けに、行き先を東北地方に変えて計画をしていましたが、最近の情勢ではそれも難しくなってきました。現在、3年生の先生方が様々な方向性を模索しているところです。おうちの方々も心配していることでしょう。更なる変更案について、今日、プリントを配ります。先生の説明をよく聞き、家に帰ったら保護者としっかり読むようにしてください。

宿泊学習は、9月実施に変更して計画をしていますが、今のところその方向で実施予定です。でも、状況によっては、再度変更もあるかもしれません。校外学習については、現在、10月実施に向けて、内容の変更も含めて検討中です。もう少しお待ちください。

次は、体育祭についてです。先ほど述べた通り、年間計画では5月29日に実施予定でしたが、臨時休校の延長に伴い実施できませんでした。それを受けて、当初は7月21日に延期し、内容も変更することで計画してきましたが、それも難しくなってきました。

次の案として、現在、10月の学校祭と同じ日に体育祭を実施することを検討しています。もちろん、どちらとも例年と同じ形や内容ではできませんが、簡単にはあきらめずに、皆で知恵を絞り、工夫しながら実施に向けて計画を進めていきたいと考えています。

先日、江別市教育委員会から正式に連絡があり、今まで臨時休校になった分の授業時間を少しずつ取り戻すために、夏休みが短くなり授業日になります。また、月に1回程度ですが土曜日にも授業を行う月があります。さらに、秋休みも2日計画されていたうちの1日は登校日になります。夏休みほどではありませんが、冬休みに何日か登校することもあるかもしれません。

現段階で決まっていることや変更点などを詳しく書いたプリントを今日配りますので、まずは自分で読んで心づもりをしておいてください。そして、保護者にも必ず見せて、しっかりと確認しておいてください。

長くなりましたね。ごめんなさいね。もう少し我慢して聴いてください。

最後に話さなければならぬことは、部活動の件です。私個人の本音として、最も話すのが辛いことです。これからお伝えする事実が決定されて以来、今日ここで皆さん、特に3年生の皆さんにそれを伝えるのに、なかなか言葉にすることができなくてとても悩みました。でも、だからといって私がここで立ち止まっていては、皆さんが前に進めないと思うので、覚悟を決めてお話しします。

ニュースや新聞で知らされていたこともあり予想をしていた人もいると思いますが、中体連については、全国、全道、管内、市内すべての大会や試合の中止が決定されました。中文連についても、吹奏楽部が出場を予定していた管内中文

連の器楽発表会、目標としてきた札幌地区、全道、全日本、全ての吹奏楽コンクールの中止が決定されました。

皆さんが目標に向かって頑張る姿を楽しみにし、時に悩んだり苦しんだりしながらもそれを乗り越えようと一生懸命取り組む思いを理解し応援してただけにとてもとても残念です。悔しいです。

これは、誰よりも、特に 3 年生の皆さん一人一人、一生懸命指導してきた顧問の先生方など指導者の皆さん、そして、皆さんを熱く温かく応援し支えてくれた保護者やご家族の皆さん、それぞれの思いの中で強く感じていることだと思います。

1 年生や 2 年生にもその思いをぜひわかってもらいたいので、今日は、特に 3 年生の皆さんへの思いを中心に述べさせてください。入学以来 2 年余り、辛くても苦しくても夢を追いかけ頑張ってきた皆さん姿を思い返せば思い返すほど、皆さんの無念さを思えば思うほど言葉がありません。

相手に敗れて、目標としてきた舞台を諦めるのではない事態は、自分自身がかつて指導する側に立ち生徒と一緒に闘ってただけにとても辛いです。

私なんかより、今まで頑張ってきた皆さんのはしさや悲しさの深さ、大きさは、計り知れないものがあります。もう思いきり泣いていいと思います。悔しがっていいと思います。誰にもその思いを止めることはできません。今は、心の整理なんてつけられないでしょうし、気持ちを切り替えることも難しいでしょう。

でも、もう少し時間が経って、少し冷静になることができたならば、ぜひ考えてみてほしいことがあります。それは、まず、今まで皆さんよく戦ったということです。仲間とともに苦しい練習に耐え、時には強豪チームやレベルの高い舞台に挑むなど大きな壁に挑戦してきました。そして、未だかつて誰も経験したことのないウイルスとも真剣に真面目に闘っているのです。辛いけど、このこと 자체がものすごい経験をしているのだと思います。

ここまで、チームや個人で立てた夢や目標を胸に 2 年余り、立派に部活をやり遂げてきたことに心から敬意を表します。きっと歴代の先輩たちにも増して、その舞台への思いは強いことでしょう。これらの経験は絶対に生きる上で助けになります。絶対とは言えませんが、この辛くても苦しくても頑張り抜いてきた経験、すなわち今まで歩んできた道のりには、そういう力があると信じています。

そして、今は悔しくて悲しいけれど、こうした思いを共有できたからこそ、一緒に頑張ってきた仲間との絆がより強くなったのだと言うことができる日々を、これからも考えて話し合って、できる限りの中でいいので創り続けていってほしいと願います。

皆さんの部活動はまだ終わりではありません。大会やコンクールがなくても、活動ができる限り、精いっぱい活動してください。今後の活動についての詳しい

ことは、今日の放課後以降、各部でミーティングが開かれると思いますので、その中で、顧問の先生の話をよく聞いて、それぞれがよく考えてみてください。

次に目指す新たなステージに向かって自分を鍛えるもよし、さらに技術を磨くもよし、後輩たちに自分が経験から得た精神力や技術を伝授するもよし、人によって様々だと思いますが、ぜひ前を向き新たな一歩を踏み出してほしいと思います。

「コロナに奪われた」という思いだけで立ち止まるのではなく、1年経ち、5年経ち、10年経った時、いつか振り返った時に「あの涙があったから」と思えるような毎日にしていきましょう。時には泣いたり笑ったり、時には意見をぶつけ合わせたりしながらも、また前を向き、仲間や先生方とともに卒業までの一日一日を大切に過ごしてください。

1年生、2年生の後輩たちは、3年生が前を見て歩むそんな姿をきっと見ています。時に憧れ、そして、尊敬しながら先輩たちを見ていると思います。そして、きっと先輩たちの分もと新たな夢や目標をもち頑張ってくれると思います。

そこに、この時こんな状況の中で同じ大麻東中の仲間としてともに前向きに歩んだという、誰にも負けない絆ができ、それが伝統になり、誰の前でも胸を張ることができる誇りになっていくのだと思います。それだけでもう例年とは違う意味をもちます。半端ない強い絆、伝統、誇りを一緒に創っていきましょう。

2020年を私は決して忘れません。皆さんも決して忘れないでください。10年後、20年後、「おれたち、私たちは、2020（ニーゼロ・ニーゼロ）世代、だから逆境に強いんだ」、そう言えるように、今よりさらに逞しく生きていってほしいと強く願います。